

# 太田東西かわら版 2010.4

## 「待つ」「信じる」

「2010年（平成22年）は大変な年になるな...」

平成6年、二男が生まれた年に思ったことです。

長男とは3才違い。

長男の大学受験と二男の高校受験の「ダブル受験」という試練が来るんだと、まだ太田東西開業前、東京で生活していた時に考えたものです。

「先生のお子さん、いいですよ～、先生も奥様もしっかりされているから」

このお言葉、たまに頂戴いたします。

皆さんには漢方相談の中で、「過度な謙遜」はいけないと申し上げています。

「お子さん、いい子ですね～」とほめられたら

「おかげさまで。ありがとうございます」と素直に答える。

間違っても子供の居る前で

「図体ばかり大きくなって、勉強はさっぱりです...」なんて言わないように。子供の自尊心を傷つけることになります。

「先生みたいなお父さんだったら、お子さん、何の心配もないでしょう」

昨年秋、そう声をかけられました。

しかし...

「おかげさまで。ありがとうございます」と返答できませんでした。

長男は、夏を過ぎ、もう秋というのに進路に悩み、二男は学習意欲を喪失。塾に行かなくなり、漫画漬けになってしまったのです。

特に二男には困った、いや、親として修行させられました。  
中学1年から自ら志願して塾に行き、勉強も部活も頑張り、成績も優秀でした。  
しかし、中3の2学期からやる気を失い、成績は下がり、志望校当確モードは  
黄色～赤信号になっていました。

太田東西は、薬局では皆さんに寛大ですが、本来の姿は「スパルタ男」です。  
「バカ野郎～、今、頑張らなくてどうする！」と、気合の平手打ちでもして  
息子にカツを入りたい！と本能が騒ぎましたが、「いやいや、待て、待て。勉強  
しなければいけないことは、本人が一番よくわかっている。その気になれない  
本人が一番苦しいんだ」と、仕事モードで考え直し…。

二男の部屋に家族で集まり話し合いもしました。しかし、やる気は起こらず…。  
とりあえず静観することにしました。  
静観は「放任・無関心」とは違います。親としては動きました。塾の先生とも  
当局相談室で話し合いました。

とにかく困った時は、人に相談することです。  
相談することから、気が楽になり、視野が広がり、流れが変わってきます。  
家族の問題を家族だけでなんとかしようとする閉鎖的な家は、「家庭崩壊」要注  
意です。つまらない見栄、プライドに縛られている機能不全家族が多いです。  
「風通しの良い家」を目指しましょう。

皆さんは、体調不良をきっかけに、太田東西に「相談」に来られました。  
これ、当たり前ではなく、素晴らしい行動です！  
世の中、その「相談」ができない、続かない人も結構いますから。  
「時間がない、お金がない」という口実で、本気で自分の健康や家庭の問題に  
向き合おうとする気概に欠けています。

「自分のことは自分が一番よく知っている、大きなお世話だ！」  
「家族・夫婦の問題に一々口出ししないでくれ、いい迷惑だ！」

過去、そう非難されたこともあります。

「相談できない人」というのは、学問的には「心を開けない人」「甘えることが  
できない人」です。しかし厳しい言い方ですが、それは「聞く耳を持たない人」  
「頑固で意固地な人」です。

相手から学んで行動する、「素直さ」「謙虚さ」が求められます。

さて、その二男坊。

ある時、「俺も太田塾で勉強しようかな」と言ってきました。

太田塾とは、週2回、息子の友人6名を自宅に集めて、勉強をみてあげていたボランティア塾のことです。

この6名、皆、成績が今一つ、いや二つ…。でも「おじさん、また血流を計らせてください～！」とか、憎めない連中なのです。

仕事の後、ゴクセンのヤンクミにならって上下ジャージに着替え、「お前ら～じゃあ今日も頑張るぞ～！」とやっていました。

息子は塾に出掛け、友人は太田塾（自宅）に集まる…。

息子の進学塾と、太田塾はもちろんレベルが違います。

太田塾では、中3に分数の足し算と掛け算の違いを教える場面も…（冷汗）

その息子が「俺も太田塾で勉強しようかな」と、なぜ言ったのか？

今の息子には「気分転換」が必要なのだと考えました。

やる気が出ないのは、「気分」の問題だと。

太田塾では苦手科目は捨て、得意科目だけ伸ばすという「割り切り」「開き直り」戦法をとっていました。勉強の後は、ヤクルトで乾杯！して解散。

「気分づくり」を最優先にして。

息子として、そんな雰囲気はうらやましかったのかもしれない。

「いいよ、お前もお父さんと一緒に教えてやってくれ」と了承し、自分の勉強はそっこのけで、友達に教えていました。

これでいいのだろうか？

いや、いいんだ。本人のやる気が出るのを「待つ」んだ。

息子に必要なのは「気分転換」「充電」なんだ。それを親が「信じる」ことだ。妻と2人、自問自答の日々でした。

それからしばらくして…

「明日からまた塾に行くよ、頑張ろうかな」と二男坊。

そして、高校入試前夜。

皆で塾長夫人の「カツ」丼を食べ、塾長は長男の高校の制服を着て応援団長となり…。

「フレ～、フレ～、お前ら～！」と激励のエール。

「情熱」を通り越して、熱苦しいですね（><）

おかげさまで二男坊、生徒たちは志望校に無事合格することができました（涙）



## 2010年、「子離れ」の試練にも苦しむ太田東西...

「太田先生はいつも元気でいいですよ～、うらやましい」

と、お客様に言われます。が、しかし...

「はい、おかげさまで。ありがとうございます」

とは、この原稿を書いている今は言えないです（沈）。

長男は第一志望だった東京薬科大学生命科学部に進学します。

学部は違いますが、両親の母校です。

息子に上京を勧めたのは、父親である太田東西。

ならばその旅立ちを、もっと喜んでいいのではないかな？

長男に「強い心」を持ってもらいたいと背中を押した反面、子煩悩の太田東西は不安であろう息子の心情を、自らの心に映し過ぎてしまい...

「かわいい子には旅をさせよ！」

そう頭ではわかっている、大丈夫だろうか？と案じ、寂しさは募り...

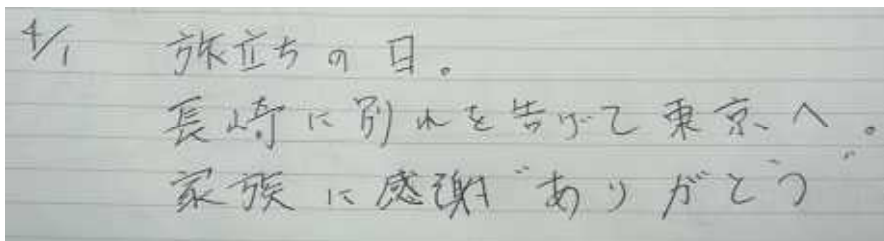
結局、家族で一番、親離れ子離れできていなかったのは、父親だったわけです...

4月1日、長男が旅立つ日。

「(近所の)神社に感謝参拝してから出発しなさい」と前日に伝えていましたが、時間もなく、その気にもなれず、行かないだろうと思っていました。

4月2日、翌日早朝。

息子の代わりに参拝しようと、その神社に出向き、参拝者が記帳するノートに目をやると



帰路、父は「涙のウォーキング」でした.....。

長男は奥手のシャイボーイ。自らの思いを記帳するなんて考えられませんでしたから。

「目に見える」親、祖父母、先生、友人、自然に感謝するだけでなく

「目に見えない」故人、先人、先祖、神仏にも感謝の心を持つこと。

この太田東西の教えを、長男が継承してくれていたこと。

もう、胸がいっぱいになりました。

父は息子に、父以上の「強い心」が必ず宿ると、信じて、待っています。